

◇令和7年／2025年5月号 第111号◇

會



報

産経国際書会

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



産経国際書会は4月17日、令和7年度総会を開き、「2025年大阪・関西万博」会場内での特別展開催（6月14～19日）など令和7年度の事業計画ほか、予算・人事案が承認されました。



産経新聞社
取締役会長
産経国際書会会長
飯塚 浩彦

大阪・関西万博展で 存在感を示そう

4月から産経国際書会令和7年度の新たな活動が幕を開けました。

今年度の事業の大きな柱は、皆様ご存じのように4月13日から大阪・夢洲で始まった2025大阪・関西万博のギャラリーEASTで行う「産経国際書展大阪・関西万博展」です。

書展会場は、夢洲駅に隣接する東ゲートから入り、日本政府の公式パビリオン「日本館」やEXPOホールを経て、すぐのEXPOナショナルデーホールの1階にあります。

報道でも目にしている木製の大屋根リングや海水を引いた人工池なども近くで、書展以外にも楽しめる雰囲気となっています。

展覧会には最高顧問から審査会員まで163人の皆様からご出品を頂きました。「いのち輝く未来社会のデザイン」のテーマに沿って、近未来の万博会場に展示された珠玉の作品をお楽しみにご来場くだされば幸いです。

今回は、特に関西展実行委員の先生方には当初の計画から会期中の運営、イベントまでご尽力を頂いており、あらためて感謝を申し上げます。

期間中は2000万人を超える来場者が想定されており、国内外からいらっしゃるお客様にも書道および当会をアピールできる絶好の機会だと思います。

また、国の文化審議会は3月4日、ユネスコ無形文化遺産への登録に向け、「書道」を昨年に続き提案候補に選びました。政府は3月末にユネスコに提案。審議は来年11月ごろ実施され、可否が決まる見込みです。当会も世界遺産登録の推進に向けて、引き続き尽力して参ります。

結びに、皆様の益々のご健勝、ご活躍を心よりお祈りいたしまして、私の新年度の挨拶といたします。



産経国際書会
理事長
高橋 照弘

展覧会のあり方

日頃より会員の皆さまには、産経国際書会の運営にご協力いただき、心より御礼申し上げます。

4月17日の総会で上程された全議案は承認され、令和7年度の活動を開始しています。書会の運営は会員のご協力なくしてはできません。本年度も宜しく願い申し上げます。

4月13日、大阪・関西万博が開幕しました。書会は6月14日から19日まで産経国際書展大阪・関西万博展を開催します。書会の名に「国際」を冠している私たちの書美を、国内外の入場者に知らせる絶好機です。会員こそって足を運び、展覧会を大いに盛り上げてくださるようお願い致します。

さて、書会は設立から40年が経過しました。時の趨勢^{すうせい}を的確に捉え、新たな道を拓き、いかに進めていくかが求められています。

書会の主活動である展覧会はその一つでしょう。先達の精神、情熱を慮^{おもんばか}りつつ、展覧会のあり方を思量する重要な時機となっています。

ではどうすべきか。例えば本展と新春展を孤立した点ではなく、線、面として展開させる。

具体的には、本展は「実験の場」、新春展は「作品を成熟させるための場」と位置づけ、実験を試行・反芻^{はんそう}することで、視野・書域を広めていくことが、独創的で良質な作品の創出を可能にすると考えます。

会員の躍進は書会の躍進、会員に贅^{もたら}すものと確信しています。

令和 **7** 年 産経国際書会総会 開催



産経国際書会総会で執行部の説明を聞く参加者

7 年度予算・人事案など承認

産経国際書会は4月17日、東京都千代田区の手町サンケイプラザで令和7年度総会を開きました。議事は高橋照弘理事長が進行。大作展、第41回産経国際書展、新春展の開催など6年度の事業報告が行われました。

また、6年度決算、7年度予算・人事案、「2025年大阪・関西万博」会場内での特別展開催(6月14～19日)などの事業計画が承認されました。

冒頭、あいさつに立った飯塚浩彦会長は「今年の話題は何と言っても大阪・関西万博での特別展だと思います。書を通じて国際交流を深め、わが国の書道文化を発信するという書会の原点を内外に示す絶好の機会」と指摘しました。

また、「書道」のユネスコ無形文化遺産登録に向けたさまざまな動きを踏まえ、「万博展が書道界の発展・躍進に寄与できる取り組みだと自負しています」と強調しました。



議事を進行する高橋照弘理事長

<議案>

1. 令和6年度・第40期(令和6年4月1日～令和7年3月31日)の事業報告
2. 令和6年度・第40期(令和6年4月1日～令和7年3月31日)の収支報告
3. 令和7年度・第41期(令和7年4月1日～令和8年3月31日)の事業計画
4. 令和7年度・第41期(令和7年4月1日～令和8年3月31日)の収支予算
5. 人事案件
6. その他

第40期 事業報告

◆令和6年度総会

令和6年4月18日(木)、大手町サンケイプラザで56人が参加。第39期の決算、事業報告の了承と第40期の予算、事業計画、人事などを承認した。

◆未来に向かう産経国際書会一大作を中心にー

会期 令和6年4月20日(土)～4月24日(水) 5日間
会場 上野の森美術館 全館
内容 書会役員をはじめ、ベテランから次代の書会を担う71人が未来の書道界に向けて、書道の魅力とは何かを伝えるメッセージを発信。縦・横2～3メートルに及ぶ大作を展示した。

入場者 1,583人
祝賀会 4月20日(土)上野東天紅本店
17:30～、92人が参加

◆第41回産経国際書展

作品締切 令和6年5月7日(火)必着
審査会 審査日 令和6年5月28日(火)～5月31日(金)
28日搬入、審査は3日間
会場 東京都立産業貿易センター台東館
6階展示場(東京・台東区)
審査員のべ59人、うち15人が特別選考委員。

展覧会 会期 8月14日(水)～8月21日(水) 7日間
19日(月)休館
会場 東京都美術館 ロビー階及び1階第1、2、3、4展示室と、2階第1、2展示室
作品数 5,801点(昨年6,012点)
※東京会場総展示数=2,482点

入場者 5,224人(昨年6,337人)
贈賞式 8月20日(火)、明治記念館 「蓬萊の間」
1部 13:00～14:00 公募、会友の受賞者
210人(昨年239人)出席
2部 15:00～16:00 無鑑査、審査会員の受賞者
49人(昨年49人)出席

祝賀会 8月20日(火)、明治記念館 「富士の間」
296人出席 高円宮妃殿下ご臨席

【特別展】 ①「生誕180年記念呉昌碩展」特別展示
呉昌碩とその周辺書家の作品41点を展示。晋鸛客員顧問の企画・収集により実現。
②モンゴル書道
日本モンゴル文化交流取り組み50年を記念してモンゴル国の現代作家によるモンゴル書道を紹介した。9作家15点
③特別色紙展＝御題は「進」と「瞬」
応募は55点(昨年66点)
④特別展示＝芸能人・文化人の書
岡部まり、中山秀征、藤田三保子、松村雄基、矢野きよ美、横田南嶺(円覚寺派管長)

【イベント】 ①初日14日(水) 13:00から山下海堂最高顧問、竹澤玉鈴名誉顧問、原田圭泉名誉顧問、高橋照弘理事長、坂本香心理事長代行、渡邊麗理事長代行、飯塚浩彦産経新聞社会長の7人がテーブルカットを行った。
②15日(木) 14:00～15:00 書道講座
「ーいっしょう先生の前衛書講座ー「読まないsho 読めないsho」」
講師 町山一祥副理事長 参加者50人
③18日(日) 14:00～15:30 揮毫会
高円宮賞受賞 武富明子副理事長
内閣総理大臣賞受賞 松崎龍翠副理事長

のべ約100人が鑑賞、揮毫の様子を展示壁面上部に映写。

④20日(火) 11:00～11:30 ギャラリートーク
高円宮賞・武富明子副理事長、内閣総理大臣賞・松崎龍翠副理事長、韓国文化院長賞・小野亭良常務理事、専管理事優秀賞・大段栄泉専管理事、理事優秀賞・鈴木蒼理事、モンゴル国大使館賞・平本一恵理事、産経国際書会会長賞・吉田悟審査会員の7人が自作を解説。約80人が参加。

⑤14日(水) 15:00～ 高円宮妃殿下お成り産経国際書展と産経ジュニア書道コンクールをご鑑賞。説明は高橋照弘理事長。

◆2024産経ジュニア書道コンクール

作品締切 令和6年6月11日(火)必着
審査準備 6月13日(木)、19日(水)
審査会 審査日 6月24日(月)
会場 東京都美術館地下3階第2審査室
A、Bと第2作業室A、B
審査員30人(実行委兼務8人)、実行委員3人

審査後整理 6月25日(火)、26日(水)
展覧会 会期 8月14日(水)～8月21日(水) 7日間
19日(月)休館
会場 東京都美術館 2階第3、4展示室
作品数 13,130点(昨年12,580点)
※高校生A部門の入選50点を展示替えをした。

入場者 5,825人(昨年5,731人)
贈賞式 8月17日(土) 11:00～16:00、東京都美術館講堂
3部構成として実施。いきいき賞、ジュニア賞、高校生部門と中学生以下特別賞との3つに分けて行った。

出席者 いきいき賞64人、ジュニア賞63人、高校生24人、国際賞2人、中学生以下特別賞22人
【席書会】 高校生7人、中学生9人、小学生3人の計19人の上位入賞者が実施。

【ワークショップ】 「筆と墨でうちわや半紙に字を書こう」 2階第3展示室奥
14日(水) 13:30～16:00
15日(木)、16日(金)、18日(日)、
20日(火) 10:00～12:00、13:30～16:00
21日(水) 10:00～12:00

◆第41回産経国際書展 関西展

会期 令和6年9月4日(水)～9月8日(日)
会場 京都市・京都市京セラ美術館
作品数 428点 ジュニア238点
入場者 1,815人
贈賞式・祝賀会 9月8日(日)、リーガロイヤルホテル京都
受賞者73人、祝賀会158人

◆第41回産経国際書展 東北展

会期 令和6年9月13日(金)～9月18日(水)
会場 仙台市・せんだいメディアテーク
作品数 208点 ジュニア223点
入場者 1,347人
贈賞式・祝賀会 9月15日(日)、ホテルメトロポリタン仙台
受賞者23人、祝賀会85人

◆第41回産経国際書展 瀬戸内展

会期 令和6年9月24日(火)～9月29日(日)
会場 広島市・広島県立美術館

作品数 284点 ジュニア187点
入場者 890人
贈賞式・祝賀会 9月28日(土)、ホテル広島ガーデンパレス
受賞者27人、祝賀会99人

◆第41回産経国際書展 中部展

会 期 令和6年11月6日(水)～11月10日(日)
会 場 愛知県美術館ギャラリー
作品数 336点 ジュニア56点
入場者 1,462人
贈賞式・祝賀会 11月10日(日)、ホテルメルパルク名古屋
受賞者41人、祝賀会87人

◆産経国際書会秋季研修会

実施日 10月12日(土)、13日(日)
会 場 国立新美術館3階講堂(東京)
内 容 漢字の臨書から、仮名(古筆)の臨書に学習範囲を広げ、更に漢字と仮名の組み合わせである調和体にも触れる。
講 師 12日午前 谷蒼涯専管理事
「高野切第三種の臨書から大字かなへの展開」
12日午後 青木錦舟副理事長
「分かり易いちらし、構成美の作り方」
13日午前 伊藤春魁専管理事
「関戸本古今集の臨書から大字かなへの展開」
13日午後 鎌田悠紀子専管理事
「調和体の歴史と今・初心者でも書ける方法」

◎12日は96人、13日は77人が参加した。各講師が40分で講義を行い、その後受講者が自席で実習。書き上げたものを4人の講師のもとへ持参し添削・指導を受けた。受講者は何度でもどの講師でも自由に添削、指導を受けることができる形で、大変好評だった。

◆第41回産経国際書展 新春展

大作下見検討会 令和6年9月19日(木)
国立新美術館 地下1階審査室
Ⅱ(公募)審査 令和6年12月6日(金)
国立新美術館 地下1階審査室
会 期 令和7年1月22日(水)～2月3日(月)
会 場 国立新美術館
作品数 834点
入場者 3,108人
大作品者 鈴木蓉春専管理事、梶谷綾泉専管理事、柳鵬翔理事、佐藤小菊審査会員の4人
テーブルカット 1月22日(水)10:30
国立新美術館2階展示室入口
齋藤香坂最高顧問、手島泰六名誉顧問、原田圭泉名誉顧問、高橋照弘理事長、飯塚浩彦取締役会長の5人で行った。
ギャラリートーク 1月31日(金)13:30～14:10
山本晴城副理事長、浅香秀子専管理事、鈴木蓉春専管理事、吉野富龍専管理事、梶谷綾泉専管理事、鈴木暁昇専管理事の6人で行った。
贈賞式・祝賀会 1月31日(金)16:00～18:00 明治記念館

第41期 事業計画

◆第42回産経国際書展 審査会

会 期 令和7年5月28日(水)～5月30日(金)
会 場 東京都立産業貿易センター台東館5階
※5月27日(火)は作品搬入、懇親会実施(予定)

◆産経国際書展大阪・関西万博展

会 期 令和7年6月14日(土)～6月19日(木)6日間
会 場 大阪・関西万博会場内 ギャラリーEAST
開 幕 6月14日(土)14:00～ テープカット
イベント 「It's "書"Time!好きに書こう! (仮称・案)」
来場者が希望する好きな言葉や名前などを先生が書いて差し上げます。また、ご自分で書いてみたい方には実際に書く指導もします。書いたものはお持ち帰りいただきます。
進 行 5月16日(金)万博現地運営会議。

◆2025産経国際書会初夏研修会(旅行)

会 期 令和7年6月14日(土)～6月16日(月)
目的地 大阪・関西万博会場内「万博展」視察、和歌山・和歌の浦温泉、四日市・澄懷堂美術館訪問
内 容 初日に「産経国際書展 大阪・関西万博展」開幕式に参加、2日目懇親会、3日目「澄懷堂美術館」にて明清時代の作品を鑑賞(予定)

◆2025産経ジュニア書道コンクール 審査会

会 期 令和7年6月24日(火)※25、26日に作品整理
会 場 東京都美術館 地下3階第2作業室A・B、審査室A・B

◆第42回産経国際書展

会 期 令和7年8月14日(木)～8月21日(木)
会 場 東京都美術館 ロビー階、1階第1室～第4室、2階第1、2室(計10室)
贈賞式 8月19日(火)明治記念館 13:00～

◆2025産経ジュニア書道コンクール

会 期 令和7年8月14日(木)～8月21日(木)
会 場 東京都美術館 2階第3、4室
贈賞式 8月16日(土)東京都美術館講堂 11:00～

◆第42回産経国際書展 関西展

会 期 令和7年9月2日(火)～9月7日(日)
会 場 大阪市立美術館
贈賞式・祝賀会 9月7日(日)都シティ大阪天王寺 12:30～

◆第42回産経国際書展 東北展

会 期 令和7年9月12日(金)～9月17日(水)
会 場 せんだいメディアテーク
贈賞式・祝賀会 9月15日(月・祝)ホテルメトロポリタン仙台 15:00～

◆第42回産経国際書展 瀬戸内展

会 期 令和7年9月23日(火)～9月28日(日)
会 場 広島県立美術館
贈賞式・祝賀会 9月27日(土)ホテル広島ガーデンパレス 14:00～

◆第42回産経国際書展 中部展

会 期 令和7年11月11日(火)～11月16日(日)
会 場 名古屋電気文化会館
贈賞式・祝賀会 11月16日(日)名古屋ガーデンパレス 12:00～

◆令和7年度理事会

会 期 令和7年12月4日(木) 14:00～
会 場 大手町サンケイプラザ311・312号室

◆第42回産経国際書展 新春展

会 期 令和8年1月21日(水)～2月2日(月)
会 場 国立新美術館
贈賞式 1月30日(金)明治記念館 16:00～(予定)

第40期 決算と第41期 予算

税別

区分	第40期		第41期
収入	予算		予算
	会費収入等	実績	
	100,430,000	100,058,039	97,801,000
支出	事業費	23,650,000	24,363,111
	国際書展出品料	33,000,000	32,654,000
	その他運営費等	43,780,000	43,040,928
			42,161,000

会費収入

(単位:円)税別

区分	第40期決算	第41期予算
審査会員	51,811,000	52,600,000
無鑑査会員	21,744,000	23,100,000
会友	15,204,000	14,300,000
計	88,759,000	90,000,000

出品料

(単位:円)税別

区分	第40期決算	第41期予算
審査会員(3万円)	17,160,000	18,900,000
無鑑査会員(2万円)	8,820,000	9,000,000
会友(1.3万円)	5,551,000	6,240,000
計	31,531,000	34,140,000

第41期 産経国際書会役員

2025. 4 ~ ○=新任(敬称略 50音順)

【会 長】	飯塚 浩彦								
【最高顧問】	齋藤 香坡	村越 龍川	山下 海堂						
【会長代行】	伊藤 富博	三笠 博志							
【名誉顧問】	生田 博子	石川 天瓦	今口 鷺外	竹澤 玉鈴	手島 泰六				
	原田 圭泉	平方 峰壽							
【常任顧問】	今田 篤洞	岩浅 写心	岩下 鳳堂	岩田 正直	上野 鶴陽				
	青陽 如雲	高木 撫松	○高頭 子翠	田村 政晴					
【顧 問】	加藤 深流	白崎 菖汀	望月 暁云						
【客員顧問】	齊藤 華秀	晋 鷗	高畑 常信	武田 厚	竹中 幸生				
	趙 白鶴	平方 研水	劉 洪友						
【参 与】	大橋 玉樹	木住野 栄							
【名誉理事長】	風岡 五城								
【理 事 長】	高橋 照弘								
【理事長代行】	坂本 香心	渡邊 麗							
【副理事長】	青木 錦舟	勝田 晃拓	金丸 鬼山	武富 明子	建部 恭子				
	○永田 龍石	正川 子葉	町山 一祥	松井 玲月	松崎 龍翠				
	山本 晴城								
【専務理事兼事務局長】		糸 雅人							
【事務局次長】	杉本 弥美								
【事 務 局】	高橋 天地								
【事務局顧問】	吉井 雄二								
【常務理事】	赤堀 翠柳	浅香 秀子	石井 理春	泉 芳秋	磯邊 哲舟				
	伊藤 春魁	伊東 玲翠	今井 翠泉	岩村 恵雲	上村 陽香				
	江戸 秀虹	遠藤 乾翠	大庭 清峰	岡本 杏華	小川 艸岑				
	小名 雪揺	小野 亭良	加藤 香誓	鎌田悠紀子	菊山 武士				
	木村 大澤	黒田 浩芳	小杉 修史	後藤 教子	斎藤 秀翠				
	五月女紫映	眞田 朱燕	菅原 有恒	鈴木 青苑	鈴木 博子				
	鈴木 祐洞	鈴木 蓉春	田島 青谷	○鶴田 秀紅	戸叶 幽翠				
	長尾 佳風	中野 和博	中村 雪鷺	西尾 秀誠	西川 万里				

【専管理事】

【理事】

【監事】
【評議員】

林眞々田	龍壽	成扇	久田本橋	方曉春景	人見諸留	恵風大穹	堀江山下	宣久翠風	前田吉野	聖峰富龍
渡邊安蒜	欣青	祥華	生田大段	佳葉榮泉	遠藤○大久	香葉恵華	及川恩田	扇翠瑞貞	老川梶谷	揺舟綾泉
大田北川	桂水	佳邑	小泉	玲洸	○五戸佐藤	光岳志陽	小林篠原	紫雲秀朋	小宮鈴木	求茜曉昇
近藤鈴木	豊泉	愚山	○齊藤○鈴木	春欣蒼	諏訪谷	春蘭蒼涯	高野富田	彩雲静流	武中野	翠泉桂月
竹内西尾	美翠	蘭畦	橘芳賀	圭子祥緑	○早坂宮川	喜伊姦子	菱沼三宅	東坡秀紅	平岡村越	雄峰弘鷹
○布施	夏翠	理泉	○和田伊藤	簗月玲砂	渡邊麻衣子	和道芳洲	○渡辺岩間	龍泉桃香	上田大八	智子雅山
○盛田石井	思水	春藍	大川小名	牙城詢子	岩田大澤	左鶯春華	大場影山	映翠瑤琴	加柴木村	律子翠川
岡村加藤	公裕	松亭	加藤小杉	玉花竹藜	○叶小林	千津枝峯	○河口今野	美櫻美晃	齋藤鈴木	欣江葉光
久米斎藤	麗鳳	修竹	佐武関根	照聲春峰	○柴山瀬戸	桂舟沙焱	沈高橋	強峰月龍	鈴木玉木	白雲博子
関根玉田	史山	翠蘭	辻長谷川	和雲明扇	長瀬林	清方草川	中塚平本	一恵礼子	藤井宮平	峯子翠玲
中村古谷	華楓	雅簫	○松永矢崎	葵心藤香	養口柳	鵬翔玉華	山口横溝	了世景陽	山田ラモス	娃泉逸子
山田高橋	翠石	奏劍	○町田秋葉	武山秀厓	阿久津由美	新井石井	瑞鳳政子	荒井裕水	○石上石黒	千嘩鴻羽
愛澤有友	啓扇	杏華	飯田石川	恵美子溪舟	井形石川	石川岩佐	由美登花	○石黒岩澤	圓田大竹	翠汀翠泉
伊勢植木	枝香	樹子	伊藤植田	秀泉泰之	○井上梅田	ちか子青舟	梢風美州	圓田大竹	岡崎小野寺	翠葉洋翠
黄木大谷	孝一	芳雨	大木大平	翠晃美侑	大毛大谷	煌水起仙	○大山小谷	湯泉翠谷	小野寺カレン	翠苗紅鸞
小笠原素心	聖乘	静雅	岡田梶井	崇花香龍	○岡林加藤	桂谷カズ子	門山小関	玲花麗翠	坂井佐藤	光泉マス子
倉賀野	那花	邦仙	作村佐野	聖風理子	○笹山澤村	紅樹春泉	定野篠原	桂雪寒鵬	○島田杉原	昌広和香
○酒井清水	哇花	雄喜	清水須田	碧沙瑞兆	○白石須山	馨扇華翠	末永橘	香雅紫風	曾根田中	小徑香雪
○佐鈴木	邦仙	春畝	○高松田端	紅真香峰	田嶋田村	廸子景翠	塚原銅山	黄華桃虹	津久井桂佳	○利根川秀佳
常松富岡	昇儼	桃翠	○外山波多	錦紅久美	○寺田中井	悦子菖風	中西林	桂銅美蕙	○中村晴山	紅舟竹芳
野原日野	永翔	鳳凰	平野降幡	恵亮加津	福島古谷	恭子紫水	福田星野	英道秀水	藤井星野	玉咲葉柳
藤村堀江	滿恵	龍舟	堀川松永	梨華光鳳	○前田松村	恵泉数範	正光松本	紅雲玉葉	松岡三浦	静仙希韶
松戸三宅	清玲	華子	○宮下八木	信秀一華	○山崎米山	翠龍嵐石峯	村山渡辺	蛭泉萌敦子	○本山山本	鈴翠るみ
森田吉田	香深	悟	吉本	雪華					渡邊	正峰

第 42 回 産経国際書展に向けて



良き作品の選定と展示を 実行委員長 副理事長 金丸鬼山

第42回産経国際書展に先立ち、まず触れておきたいのが6月の産経国際書展大阪・関西万博展です。海外の人々にも書道に親しんでもらい、書道のユネスコ文化遺産登録に寄与できればと願っています。

さて、本展の開催が少しずつ近づいてきました。企画部では、昨年大いに盛り上がったギャラリートークほか、高円宮賞と内閣総理大臣賞などの受賞者による揮毫会などを検討中です。

また、特別展示では、「中国 明清時代の名品」と、昨年会場で不思議な魅力を放った「モンゴル書道」が企画されており、今年も来場者の注目を集めるでしょう。

無事に第41期総会を経て、本展の作品鑑別審査が5月28日から30日まで、東京都台東区の産業貿易センター台東館で実施されます。いつもながら多くの審査事務スタッフ、各社中から駆けつけた当番審査員の先生方のご協力をいただき、感謝申し上げます。

審査では、書会の基本理念である4C (Clean=清潔、Clear=明朗、Creative=創造、Character=品格)を基に、より良い作品を選定することが審査員の責務だと思います。

展示作品に誤字、脱字があってはなりません。見学者にそれらを指摘されないことが何より大切なことです。素晴らしい作品を効果的に陳列し、多くの来場者に見ていただくことが執行部の願いです。

第 42 回 産経国際書展 審査員

●特別選考委員

石川天瓦、今口鷺外、風岡五城、笠嶋忠幸、齋藤香坡、武富明子、竹澤玉鈴、田村政晴、手島泰六、鍋島稲子、原田圭泉、松崎龍翠、村越龍川、山下海堂、劉作勝、渡邊麗

●漢 字

新井瑞鳳、泉芳秋、磯邊哲舟、伊藤秀泉、大庭清峰、河島彩澄、坂本香心、鈴木曉昇、関根史山、高木撫松、只野翠苑、長尾佳風、平岡雄峰、柳鵬翔、山本晴城

●か な

浅香秀子、伊藤春魁、齋藤春欣、鈴木蒼、谷蒼涯、中村雪鷺

●現代書

植木由樹子、大久恵華、河口美櫻、加柴律子、倉島美瑤、五月女紫映、正川子葉、町田武山、松井玲月、山田秀園、渡部美恵子、渡邊麻衣子

●篆刻・刻字

晋鷗、高橋照弘、町山一祥

●臨 書

青木錦舟、岩浅写心、金丸鬼山、林龍成、眞々田壽扇

●U23

鎌田悠紀子、五戸光岳、眞田朱燕、建部恭子、三宅秀紅

※外部審査員 特別選考委員＝笠嶋忠幸(出光美術館学芸部次長)
鍋島稲子(台東区立書道博物館館長)
劉作勝(愛知学院大学教授)

第42回 産経国際書展実行委員会

【実行委員長】		金丸鬼山
【審査部】	本部長	勝田晃拓
	漢字部 部長	吉野富龍
	委員	副部長 本橋春景 石川晴空、恩田瑞貞、十亀紫風、東浦曉舜、横溝景陽、和田玲砂
かな、篆刻・刻字、臨書部		
	部長	諸留大穹
	委員	進藤栄峰、高野彩雲、松岡篁月、宮川彪子
	現代書部 部長	西川万里
【搬出入部】	委員	栗原蓮翠、倉賀野静、小杉秀花、鶴淵雅泉、山冲春蘭
	部長	永田龍石
	委員	梶谷綾泉、門山玲花、神谷映水、柴山枝峯、塚原桃虹、村山蛭泉、矢野春潮
【陳列部】	部長	山本晴城
	副部長	永田龍石、渡邊祥華
	委員	阿久津由美、安蒜欣青、内田子鴻、大場映翠、岡村公裕、五戸光岳、柴山枝峯、鈴木曉昇、鈴木蓉春、関根史山、中野和博、林龍成、村越弘鷹
【図録部】	部長	青木錦舟
	副部長	岩村恵雲
	委員	大久恵華、恩田瑞貞、久米麗鳳、諏訪春蘭、高橋峰月、武翠泉、中村蘭香、村山蛭泉
【東京部会】	部長	武富明子
	副部長	黒田浩芳、山下翠風
	委員	岩間桃香、久米麗鳳、関根春峰、平本一恵
【東北展】	顧問	田村政晴
	実行委員長	松崎龍翠
	事務局長	建部恭子
	実行委員	小嶋カズ子、五戸光岳、末永香雅、鈴木葉光、芳賀祥祿、宮崎礼子、渡辺敦子、渡部美恵子、渡辺龍泉
【中部展】	顧問	村越龍川、風岡五城
	実行委員長	勝田晃拓
	副実行委員長	山本晴城、渡邊祥華
	実行委員	赤堀翠柳、磯邊哲舟、伊藤春魁、老川揺舟、大場映翠、岡本杏華、刑部翠風、菊山武士、木村大澤、小泉玲洸、佐武照聲、田中龍瀨、村越弘鷹、和田玲砂
【関西展】	顧問	平方峰壽、今口鷺外
	実行委員長	松井玲月
	副実行委員長	正川子葉
	実行委員	小野亭良、長尾佳風、中村雪鷺、久田方琥、西尾蘭畦、篠原秀朋、生田佳葉、竹内美翠、加藤竹黎、柳鵬翔、山田秀園、山田娃泉、山口了世
【瀬戸内展】	実行委員長	大庭清峰
	副実行委員長	上村陽香
	実行委員	大田桂水、石井思水、平岡雄峰、大段栄泉、松岡舟波、三宅秀紅、鈴木蒼、藤井峯子、圓田翠泉、田中春畝、藤井玉瑛、曾根小徑、田中吳峰、植木由樹子、美之口琴晴

第 41 期 産経国際書会運営委員

※任期は令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日 (50 音順)

【総務部】	担当 理事長代行 部長 委員	坂本香心 浅香秀子 鈴木博子、戸叶幽翠、人見恵風
【会報・広報部】	担当 副理事長 部長 委員	永田龍石 小川艸岑 影山瑤琴、早坂喜伊、横田玉華、渡邊麻衣子
【企画部】	担当 副理事長 部長 委員	金丸鬼山 岩村恵雲 大久恵華、恩田瑞貞
【研修部】	担当 副理事長 部長 委員	勝田晃拓 永田龍石 進藤栄峰、松岡篁月
【教育部】(ジュニア育成)	担当 副理事長 部長 副部長 委員	松崎龍翠 眞田朱燕 高野彩雲 岡田崇花、鎌形美遊、小池雅游、今野美晃、笹山紅樹、鈴木葉光、長岡輝美、長谷川明扇、星野葉柳
【渉外部】	担当 副理事長 部長 部員	町山一祥 鎌田悠紀子 遠藤香葉
【会員増加企画(東京)】	担当 理事長代行	坂本香心、渡邊麗
【会員増加企画(大阪)】	担当 副理事長	正川子葉、松井玲月
【東京】	部長 副部長	武富明子 黒田浩芳
【東北】	部長 副部長	松崎龍翠 建部恭子
【中部】	部長 副部長	山本晴城 伊藤春魁
【関西】	部長 副部長	松井玲月 正川子葉
【瀬戸内】	部長 副部長	大庭清峰 上村陽香

新役員からひとこと



永田龍石副理事長

このたび副理事長を拝命致しました。思えば、産経国際書会の設立時に、会の発展のため身を粉にして活動された偉大な諸先生方も鬼籍に入られてしまいました。副理事長の大役を仰せつかった今、私の思いは一つです。この書会を次世代に繋げていくことを念頭に職務に邁進したい。書会の先生方、関係する皆様のご指導、ご協力も賜わり、全力で頑張っていきたいとの思いを強くしました。何卒よろしくお願い致します。

新しく審査会員になられた方

新井桃坡	市川鈴雪	伊東洋子	大賀陽子	大久保節子	大塚美雪	小笠原玉玲	柏村明子	北畑円美
栗原昇蘭	栗原蓮翠	桑 壽香	後藤正子	小山鷺果	坂本蒼榮	澤口貴美江	塩原健作	鈴木栖城
高橋岳城	武田雅鳳	鶴淵雅泉	長瀬梅昇	新谷翠泉	新田裕畦	野坂みい	波多野美麗	原 黄馨
堀切清之助	松本岳山	水野玉苑	山下元葉	王 瑩				

新しく無鑑査会員になられた方

荒尾蓉月	安静圓成	家田陽水	池田洋珠	市川和子	岩本京子	牛嶋紅楓	江口鶴翠	大城春慶
岡本順子	奥城蒼月	小田仙露	小俣紫香	加藤貫源	川上青舟	木坂京華	楠 昇殷	小池路華
小峯松鶴	坂本蒼月	佐野紫風	清水玲飛	瀬川永扇	高橋遊壽	高松亮子	竹中光順	達家祥琴
谷 政憲	津田芳華	津村昇柊	利光竹心	殿村翠蘭	富田曉玄	中村璣峰	橋本 妙	橋本敦心
林 薫禎	林寄義信	半谷松秀	平尾佳瑛	深松華夢	藤岡蒼海	藤田姫水	前田蕙花	松尾大雅
松田湖風	松原山恵	森田康仁	矢澤見左子	山本龍子	横田明梨			

新しく会友になられた方

秋田清蘭	朝妻竹陽	浅沼苔蓮	朝生育代	天野雅芳	雨宮和美	安藤清美	安藤千春	池田珖舟
伊藤枝仙	井藤恵美	稲岡輝祥	猪田蕙綏	今井蒼月	井理泉鷲	盈 衣	植田和美	江種雄山
榎本 蒼	遠藤春美	大窪浮鷗	大島麗硯	大友鶴風	大橋由美子	岡田蕙風	岡部實樹	沖本緑風
押野珠雪	小野田幸儼	小山暁仙	折尾遙光	加藤詠風	川端佳叶	菅野英子	菊地華香	菊池嵐舟
木村成彦	木村理恵	楠本蒼櫻	葛谷綺仙	郷 華秀	後藤紅燕	後藤紅扇	後藤蒼葉	小林美沙子
佐賀七海	魚	佐藤夏奈	塩川富月	白川史代	杉之原玉翔	鈴木啓心	鈴木翔馬	鈴木広之
鈴木芳泉	須田由利子	瀬谷秀蘭	相馬雲峰	高井理舟	隴西静美	竹田秀恵	武安典代	蓼沼陽子
田中敦子	玉井陽舟	全 和美	津村芳珠	手代木龍也	徳原希鳳	永澤陽子	中曾根緑	中園和博
中西白蓮	中原由季望	西村航輝	八藤江彩	花田瓜現	原澤雄一	原田亞希子	藤本翠姚	間瀬宏美
松岡香翠	松永和美	松原尚美	水戸廣臣	美濃部艸夢	宮田翠祐	村越深雪	森 浄雲	屋代清漣
山内秀洸	山口鳳洲	山田志峰	山本浩然	湯川湖霖	雲 龍子	横木芳樹	芳村里奈	渡辺貴子
渡邊悠晃								

第41回 産経国際書展 新春展



東京部会部長 副理事長 武富明子

第41回産経国際書展新春展が国立新美術館にて、1月22日から2月3日まで開催されました。昨年夏の異常な暑さから暖冬になるかと思いきや、寒波の到来で厳しい寒さが続く最中でした。

初日のテープカットを皮切りに、2つ目のイベント「ギャラリートーク」が1月31日、明治記念館での贈賞式・祝賀会の前に新美術館で行われました。5人の先生方が各人の作品の前で、題材や用具選びと制作への意気込みなどについて話されました。

殊に大作の先生お二人がともに持参の大筆を用いて、制作時の様子を実現なさり、聴衆を惹きつけておられたのが印象的でした。披露された中のお一人は「空手を習っている」と仰っていました。大作となると強靱な体力が必要のようです。新春展会場での久しぶりのギャラリートークは、企画部の進行により良い成果を上げられたかと思います。

12日間にわたる間、お天気に恵まれたことと、2つの催しによるおかげでしょうか。シアトルやロサンゼルスからの会員も含めて、たくさんのご来場者に恵まれ、盛会裏に終了致しました。

この度も受付を担ってくださった東京都部会会員と各社中の先生方に、厚く御礼を申し上げます。



開幕式テープカット



華やぐ会場



祝賀会風景



力作がずらり



産経新聞社賞受賞の皆さん



会友奨励賞受賞の皆さん



会友奨励賞受賞の皆さん



奨励賞受賞の皆さん



奨励賞受賞の皆さん



奨励賞受賞の皆さん



奨励賞受賞の皆さん

「第42回産経国際書展新春展」大作募集

産経国際書展新春展の顔として定着してきた大作。次回も産経国際書会を代表する力あふれる大作を募集します。出品資格を満たせばどなたでも出品は可能ですが、大作の出来映えは、産経国際書会全体の力量が問われる重要なものとなります。自薦、他薦ともに下見会を実施します。詳しくは書会事務局（03-3275-8902）まで。

出品資格	無鑑査以上
応募締切	8月29日（金）
応募数	5点（最大7点まで）
下見日	9月18日（木）予定
寸法	4尺×4尺以内

第41回 産経国際書展 新春展ギャラリートーク

第41回産経国際書展新春展では、産経国際書会の幹部書家6人が出品作を執筆した背景や思い、書作で駆使したテクニックなどを解説する「ギャラリートーク」が1月31日、展示会場で開催されました。

まず山本晴城副理事長が金文の出品作「獻嘉觴」（かしょうをけんず）を紹介。「酒杯を捧げるという意味。新春展に相応しい題材だと思った」といい、制作中は「文字の陰陽、どーンと明るい所を作る、線の強弱と混じり合いに気を配った」と振り返りました。

次に迫力のある李白の七言律詩「誰道君王行路難理…」を執筆した吉野富龍常務理事が解説。「今回は書き始めの部分が自分にとって書きやすい字を選んだ」と明かし、「その方が次へすんなりと筆が流れていくから」と説明しました。

続いては、浅香秀子常務理事が6枚の扇に和歌を書いて並べた出品作「春の夢」を振り返りました。制作中は「効果的な配置をずっと模索し、私的にはこの作品が答え」といい、運筆では「厚みのある線と、その動きに若々しさが感じられること」を心がけました。

4番手は鈴木曉昇専管理事。出品作「韋元旦 滄池滌沆帝城邊…」については、「絵画性があり、立体的な作品が書けないものか」との問題意識を持って制作に臨みました。「数日置いた宿墨で書き、試行錯誤を重ねた」と工夫の一端を明かしました。

残る2人は大作を出品した梶谷綾泉専管理事と鈴木蓉春常務理事。梶谷専管理事は豪快な「亀龍寿」を揮毫しました。冒頭「ずっと甲骨文字に魅せられて書いてきました」と紹介。「龍」の字を真ん中に配置した理由に言及し、去年が辰年であることや自身が79歳を迎えたことを踏まえ、「これを機会に私も龍のごとく高みへと昇っていきたい」と抱負を語りました。

鈴木常務理事は「挑む」を出品。書道のほか、長年空手の修行にも注力してきたことを明かした上で、所属する空手会の一昨年のテーマ「挑」に共感し、新春展では迷わず「挑む」として大作の題材に選んだそうです。「まず大切だと考えたのは、字の持つダイナミックな動きとボリューム感」と強調しました。



山本晴城副理事長



吉野富龍常務理事



浅香秀子常務理事



鈴木曉昇専管理事



梶谷綾泉専管理事



鈴木蓉春常務理事

開放的でコンパクトな空間を演出

産経国際書展 大阪・関西万博展迫る

産経国際書会会長代行 伊藤富博

「こんにちは～ 桜咲く～」という歌のフレーズが耳から離れない。

この歌は、コブクロが2025大阪・関西万博のオフィシャルテーマソングとして制作した「この地球(ほし)の続きを」の一節である。

今から55年前の1970年3月、大阪・吹田で日本初の万国博覧会が始まった。

高度経済成長のなか、「月の石」や岡本太郎制作の「太陽の塔」などが話題となり、入場者はなんと6421万人、当時の日本の人口の半分以上にあたる人たちが訪れた大イベントであった。

中でも三波春夫らによる「こんにちは～ こんにちは～」で始まる公式ソング「世界の国からこんにちは」はまさに万博そのものをあらわす歌となった。

4月13日、大阪に55年ぶりに万博が戻ってきた。会場は大阪湾に面する夢洲、テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」、目標人数は2800万人。

2023年、産経新聞社に日本万国博覧会協会から催事への協力依頼があり、検討のうえ、海外でも人気の書道とアニメの催事を提案することとなった。

それが万博で産経国際書展を開催することになった次第である。

まずは、関西展の先生方にも相談、快諾を頂き、その後様々な準備を経て、3月5日に初めて会場のギャラリーEASTを視察した。今口鷺外名誉顧問、松井玲月副理事長、牧野商会の岡本高志さん、私と糸雅人事務局長の5名で、

開業したばかりの地下鉄夢洲駅で下車、まだあちこちで工事が行われている会場内をヘルメットを着けての視察となった。

ギャラリーEASTは木材で作られた1周2kmの大屋根リングと海水を引き込んだ人工池に隣接し、ガラス張りの真新しい会場内はコンパクトな作りで、ここで開催出来るかと思うと心躍る思いがした。

前売り券が売れていない、内容が良くわからない、マスコットのミャクミャクが不気味などどちらかというとネガティブな意見も多いが、実際に始めてみれば1日10万人前後の人が訪れ、お祭り好きの関西人をはじめ、全国的にも盛り上がっている。

そして6月14日からの6日間、国内外から集まった多くの皆様方に、「おもてなし」ならぬ「こんにちは」の精神で、産経国際書会の素晴らしいさを精いっぱいアピールしていきたい。



展示会場に隣接の大屋根リング



右から会場、大屋根リング、人工池



展示会場内部

うちの社中を紹介します！

墨晨社

産経国際書会常任顧問
墨晨社理事長

岩田正直

昭和51年1月1日 書道研究 墨晨社発足

同時に競書誌「墨晨」を創刊。準備万端整ったところで師・岩田紅洋に会長就任を打診。快諾を得て小生宅を本部に活動を開始しました。

ここで師・紅洋を少し紹介致します。紅洋は埼玉県を中心に産経、回瀾、東方で活動していました。中臺青陵先生や三田清白先生の益を享くだけで入門はしていません。強いて言えば、遠縁の岩田江南(岩田鶴皐先生社中)の屏風を見て育ち、影響を受けたと思われます。

飾らない人柄で、自ら道化役を演じることも多々あり、一緒に旅行へ行くと、初心者も含め同行者たちは皆、和気あいあいで彼のテーブルに集まっていました。

昭和52年3月25日 墨晨社の事業の一環として墨晨展発足

玉川村中央公民館に於いて第一回展を開催。

平成9年5月18日 インテリアの書展 設立総会(上野精養軒)

書は本来、床の間に飾るものを最大とするにもかかわらず、近年では美術館等の大壁面での鑑賞が増え、大作ばかりに脚光が当たる状況に違和感を覚えました。そして書展取材の折に賛同者を募ったところ、好感触を得たので小品による公募展(インテリアの書展)の発足に踏み切りました。

インテリアの書の浸透を図るべく地方展を開催

奄美大島展を皮切りに岩国展、徳島展、広島展、高知展、山形展、岡山展、北海道展を開催してきました。



書は人格形成に資することを第一義とする事は申すまでもないことですが、これをおもてに出し過ぎると門戸を狭くする危険性が否めません。美における感性を磨くことも重要と考えます。

現在は、地力を養う3×10までよしとする「墨晨書道会展」と、50cm×50cm以下の小品による「公募インテリアの書展」の2本柱で進行しております。

参加書展

- ・産経国際書展
- ・埼玉県美術展覧会
- ・埼玉県書道人連盟展
- ・墨晨書道会展
- ・公募インテリアの書展



第46回墨晨書道会展の会場



第46回墨晨書道会展の授賞式



第46回墨晨書道会展・中国訪日団



第27回公募インテリアの書展会場



第27回インテリアの書展・韓国訪日団

書展 トピックス

第20回日本藝術文化環境書道展

●会期 令和6年12月6日(金)～12月8日(日)
●会場 千葉・さわやかちば県民プラザ

谷蒼涯

日本書蒼院の環境書道展は、「美しい地球を守るために私たちは何をしたらよいか?」という環境保護と啓発をテーマに、書道の作品を通して発信している公募展です。

児童生徒部門、一般部門として募集し、東京、千葉にて各展示、表彰式を行いました。今回は20周年を迎え、総出品数約2000点超えとなりました。

両展で表彰式最後には、会場全員でジャンケン大会を行い、大いに盛り上がりました。今後も環境への啓蒙活動の一環となりますことを期待しております。



第45回国藝展

●会期 令和6年12月20日(金)～25日(水)
●会場 神奈川・鎌倉芸術館 ギャラリー1・2・3

坂本香心



昭和50(1975)年9月に設立された国際藝術家協會は当初、鎌倉藝術クラブと称し、出品者は鎌倉の住民が対象でした。その後、現在の国際藝術家協會と改名し、一般公募展を実施する団体として新たに発足しました。設立を呼びかけたのは、現在の齋藤香坡・産経国際書会最高顧問でした。

当初は、プロの方が多く、出品分野もまちまちでしたが、設立と同時に県や鎌倉市などの後援をいただき、優秀作品には賞が授与されました。会の趣旨はあくまでも優れた芸術家を育てることです。出品作品は幅25㍻の大作を中心に、小作品などが展示されました。

第40回記念景雲社「絆」書道展

●会期 2月24日(月)～3月2日(日)
●会場 静岡・クリエート浜松 ギャラリー31 勝田晃拓

どうせやるなら見せなきゃ書ン、損! 5年間温めてきた書作の思いが広い会場で一気に爆発した。正面は新春展凱旋大作、左面はサイズ、書体書風、さまざまなジャンルの意欲作が個性をアピール。奥も額装デザイナーとのコラボ作が存在感を示し、U23の若手も負けてはいない。さらに右面は壮観な祭姪文稿(さいてつぶんこう)臨書リレー、異色「経穴(けいけつ)の壺」、そして書道パフォーマンス3超大作(各幅5㍻)が見る者を圧倒。連日食い入る来場者のまなざしに加え、「楽しい、飽きない、もっといたい」など、書作冥利に尽きる言葉をいただいた。作品に心を刻み込み、皆さんとの絆へと進化した夢の1週間だった。



2025谷蒼涯書展

●会期 3月5日(水)～3月8日(土) ●会場 東京・うおがし銘茶 茶・銀座 谷蒼涯



11年ぶりの銀座での個展、大勢の方にお越しいただき、ありがとうございました。美しい料紙に書いた百人一首の流麗華美な仮名作品と、心の癒しとなる禅語の作品を合わせて、30点ほどの展示となりました。小作品の至近距離での鑑賞も「普段と違った発見、感動もありよかった」とのお声をいただきました。

会場内に活けた茶花とお茶の香りに癒される空間での展示は、海外の来場者にも日本の和の融合を感じていただけました。

創立70周年記念 高知県書芸院展

中平博子

●会期 4月8日(火)～4月13日(日) ●会場 高知市文化プラザかるぼーと

「書道芸術の振興に寄与する」を理念とし、会員、門下生の参加で78点を展示。創立以来受け継いできた伝統書道。漢字、かな、調和体と楽しい作品群となりました。日頃の書くことの喜び、幸せが表現できたと思います。視野を広げ、新しいものを取り入れながら、次回につながる展覧会となりました。



翠香会書展

齊藤春欣

●会期 4月16日(水)～4月20日(日) ●会場 君津市生涯学習交流センター

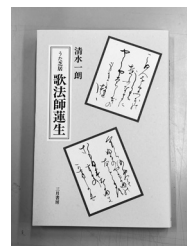
平成8年に第1回を開催。記念すべき20回目を地元・君津で迎えることができました。コロナ禍では、会場探しに奔走するなど、試練がありました。ただ、素晴らしい展覧会を目指し、会員の皆様の気持ちが1つになれるよう、努力したことが、今展の開催につながったと信じています。今回も出品者は漢字、かな、現代書を揮毫し、1年間の修業の成果を披露しました。はがき大に薄く削った君津産のスギに、会員らがそれぞれ思いを込め一字書などにも挑戦しました。



アラカルト

藤原定家の歌3首をブックカバーに

小宮求菫専管理事が装丁を担当した戯曲本『うた芝居 歌法師蓮生』(清水一朗著、本体価格1800円)が三月書房から発売されました。歌法師蓮生こと坂東武者の宇都宮頼綱は歌人、藤原定家と懇意で、「小倉百人一首」誕生に貢献したとされます。小宮専管理事は本文に登場する定家の歌3首を揮毫。「こぬ人をまつほのうらの夕なぎに焼くやもしほの身もこがれつつ」。カルタのデザインの中に大好きな細字の仮名を書きました。「書いていて楽しかった。小さな画面で強弱の散らし方を工夫しつつ書きました」と振り返りました。



急逝の片山澄男さん作品集「字はおもしろい」発刊

昨年1月に急逝した産経国際書会審査会員、片山澄男さん(享年80)の作品を集めた書籍『字はおもしろい～書は世紀を越えて～』(匠出版、本体価格1600円)が発刊されました。片山さんは難病に苦しみながらも筆を握り続け、3000年も前の古代文字を芸術的に書きあげてきました。同書には、社会の平和を祈り、人の役に立つことを願い続けた片山さんの思いが詰まっています。



展覧会出品の前に…お手本集出版

産経国際書会評議員の岡田崇花さん(日本書蒼院副理事長)が著書『小中学校用 展覧会お手本墨場必携』(日貿出版社、本体価格2700円)を出版しました。展覧会で受賞した教え子たちへの指導経験をふまえ、「書道初心者のほか、展覧会出品を目指す方のための練習用お手本集」と紹介。書道の基礎を築く第一歩は「運筆のコツや、ひらがな・漢字の基本的な形を理解すること」と強調し、豊富な具体例を盛り込みました。「練習を通じて手書きの楽しさや、リズムをつけて自分の気持ちを表現する楽しみを実感してほしい」と期待しています。



年会費のクレジットカード決済スタート

今年2月から書会年会費の支払いは、インターネット上でクレジットカード決済が可能となりました。今年度から本格導入を目指します。将来的には、出品料やイベント参加料の支払い、物品販売なども想定しています。所定URLから専用ページに入るか、QRコードをスマートフォンで読み取り、決済画面に進んでいただく形です。詳しくは書会事務局(03-3275-8902)まで。

村田白葉先生を偲ぶ

村田白葉先生は、昨年の産経国際書展中部展の開催間近になって体調を崩され、実行委員長として出席ができませんでした。責任感がことのほか強い方でしたから、さぞ口惜しい思いをされておられたことでしょう。

1日も早いご回復を祈りながら迎えた1月の新春展には、健在ぶりを示すかのような堂々とした行草3行の作品で、まずは一安心というところでした。産経国際書会の事務局から突然の計報が入り、あまりにも突然のことでただただ悔しく思うばかりです。

産経展の審査員の先生方には、村田先生の審査部長としての周到な準備と、てきぱきとした会の進行ぶりは記憶に残っていることでしょう。第40回記念産経国際書展では高円宮賞受賞の栄に浴されました。その作品は篆書で「古為鑑」の3大字。常に古典を学び続けてこられた先生にふさわしい言葉と内容でした。また先生は仮名にもご堪能で、伝統的な書においてはまさに産経を代表する書人として存在感を放っておられました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

風岡五城



高円宮賞を授与される村田白葉さん

各会書展お知らせ(産経新聞社後援)〈令和7年5月～9月〉

展覧会名	会期	会場	社中名・代表
第18回照葉会書展	5月21日(水)～5月25日(日)	埼玉・川越市立美術館 市民ギャラリー	照葉会・竹澤玉鈴
第50回記念 鍾雲書道展覧会	5月24日(土)～5月25日(日)	埼玉・寄居町中央公民館	鍾雲書道会・大澤芳洲
第51回天真同人書展	5月30日(金)～6月1日(日)	東京・セントラルミュージアム銀座	天真書道会・人見恵風
第49回國藝書道院展	6月13日(金)～6月16日(月)	神奈川・鎌倉芸術館	國藝書道院・齋藤香坡
第49回東洋書芸院公募展	6月15日(日)～6月21日(土)	東京・東京都美術館	東洋書芸院・朝比奈玄甫
2025臨泉会選抜小品展	6月24日(火)～6月29日(日)	東京・銀座鳩居堂4階	臨泉会・原田圭泉
日本ブラジル友好交流130年 鎌田悠紀子書展	6月26日(木)～7月2日(水)	ブラジル・レナート・ルッソ	秋桜会・鎌田悠紀子
第39回春風会書展	6月27日(金)～6月29日(日)	愛媛・愛媛県美術館 南館1階	春風書道会・平岡雄峰
第50回梓書道会展	6月28日(土)～6月29日(日)	東京・タワーホール船堀	梓書道会・市原蘇水
第59回書峰展	6月28日(土)～6月29日(日)	埼玉・秩父市地場産業センター	書峰書道会・田島青谷
第48回公募 梓会書道展	7月15日(火)～7月21日(月)	愛知・愛知県美術館ギャラリー	書道研究梓会・伊藤春魁
第57回現代書作家協会展	8月7日(木)～8月17日(日)	東京・国立新美術館展示室2C	現代清風会・利根川秀佳
第47回墨晨展	8月15日(金)～8月18日(月)	埼玉・埼玉会館	墨晨書道会・岩田正直
音羽会書アート展 vol.13	8月31日(日)～9月2日(火)	東京・アカデミー文京 展示室A・B	音羽書アートの会・ 諸留大穹
第51回宏道書展	9月2日(火)～9月7日(日)	愛知・名古屋電気文化会館	宏道書会・山本晴城
第54回墨林綜合書展	9月2日(火)～9月7日(日)	東京・東京都美術館	墨林書道院・遠藤乾翠
米國書道研究会60周年記念 日米合同書展	9月2日(火)～9月13日(土)	米國・ロサンゼルス日米文化会館	米國書道研究会・ 生田博子
第40回全国臨書模刻展	9月21日(日)～9月23日(火)	埼玉・埼玉会館	心芸墨美作家協会・ 岩浅写心
「墨がたり」三人展	9月27日(土)～9月29日(月)	東京・ルーサイトギャラリー	本山鈴翠、宗像翠龍

「第42回産経国際書展」の題字にご応募いただき、誠にありがとうございました

厳正なる審査の結果、誠に残念ながら、ご応募いただいた作品の中から採用を見送らせていただくことになりました。今回は高橋昭弘理事長にお願いしたところ、ご承諾いただきましたので、理事長の題字を採用させていただくこととなりました。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

追 悼

次の先生が黄泉につかれました。

本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、
心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

副理事長 村田 白葉(令和7年4月) 専管理事 羽根田和香(令和7年1月)

審査会員 長谷川愛子(令和7年3月) 会 友 尾川 滄晨(令和7年1月)

編 集 後 記

2025年は穏やかな年明けとなりました。

ただ、1月には埼玉県で突然道路陥没が起き、2月の最強寒波では各地で災害級の積雪量を記録するなど、自然災害やインフラの老朽化などの問題が浮き彫りになりました。

国外に目を向けると、ロシアとウクライナ、イスラエルとパレスチナなどの戦争、紛争は未だ終わりが見えず、平和とは程遠い状況が続いています。

そのような中、産経国際書会は例年通り1月の新春展でスタートしました。

6月にはいよいよ「産経国際書展大阪・関西万博展」が開催されます。国内、海外問わず多くの方々に書の美しさ、奥深さを知ってもらう絶好のチャンスです。これを機に日本の文化「書道」がより多くの皆様の心に根付くように願います。

そして、8月には本展、ジュニア展、その後の各地方展と休むことなく続きます。

会員各々が研鑽を積み、それぞれの個性を発揮しながら、力を合わせて産経国際書会を盛り上げていきましょう。

(影山瑤琴)

(会報編集委員／永田龍石、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、横田玉華、渡邊麻衣子)

表紙：題字揮毫は高橋照弘理事長

編集・発行 令和7年5月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

産経新聞社事業本部内

産経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

email : shokai@sankei.co.jp

<https://sankei-shokai.jp/>

<https://www.facebook.com/sankeishokai>



産経国際書会
ホームページ

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにお願ひ致します。